

令和5年度 学校評価報告書

令和5年3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道大樹高等学校長
福本正規 印

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度のスクールポリシー

○育成を目指す資質・能力に関する方針
(1) 自他を尊重する豊かな心を持ち、多様な人々が共に生きる共生社会を、支える人材となる生徒（共生）
(2) 自学と探究する力を持ち、主体的に地域共創へ参画し、新たな価値を創造していく生徒（共創）
○教育課程の編成及び実施に関する方針
(1) 授業のユニバーサルデザイン化の深化を通じ、主体的に学ぶ姿勢の向上と個に応じた最適な学びの実現による基礎学力の定着に努める。（大樹スタンダードの確立）
(2) 教科横断と地域協働による課題解決型学習の改善・充実を通じ、思考力・判断力・表現力の伸長と自ら社会的課題の解決へ参画しようとする態度の育成に努める。（地域探究学習「大樹学」の推進）
○入学者の受入れに関する方針
(1) 多様性や共生社会について興味・関心を持ち、様々な人々との協働をとおして、自他を尊重する豊かな心を身につけようとする生徒（共生）
(2) ふるさとに愛着を持ち、本校の探究学習をとおして、主体的に地域の課題解決に取り組もうとする生徒（共創）

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の授業の満足度は高く、授業改善は共通理解のもとに、ICTの活用や個に応じた工夫等を着実に進めることができている。 ○授業改善やスタディサプリの導入、キャリア教育など、学ぶ意欲を高めるための取組を行うことができた。 ○地域探究活動の生徒の満足度は高く、探究成果発表会や高校生議会に参加した関係者からも高評価であった。今後は、地域が抱える課題の解決に向けた探究活動へと進化させていく。 △学校の授業や活動などに関して、保護者には十分に伝わっていない。 △現状の取組だけでは、主体性の育成には不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のレベルや内容に満足している生徒が多く、授業改善や個に応じた工夫が適切に進められている。 ○定期考査がなくなっても、成績評価の理由や原因を生徒が理解できており、適正に行われている。 ○「総合的な探究の時間」の年間計画や単元構造図がしっかりと作られ実践されており感心した。 ○探究成果発表会の様子から、生徒の成長が感じられた。 △家庭学習等、自ら進んで勉強に取り組んでいる生徒が少ない。 △保護者へ学校の取組が伝わるように、情報発信等を工夫してほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初からの「大樹スタンダード」の明確化と校内での共有を行い、授業に関する指導や助言、研修の機会を設定する。学校の授業や活動に関して、生徒による情報発信の試みなど、保護者への伝達手段・方法を改善する。 ・各教科において小テスト等を小まめに行うなど、家庭学習を行う機会を意図的・意識的に設ける。 ・スタディサプリを全学年に導入し、学習環境の充実を図る。 ・これまでの取組の工夫・改善を図るとともに、探究や教科等横断的な学習、放課後のT-Plusなど、学習意欲を高めるための手立てを強化していく。 ・令和6年度からの地域探究科への学科転換にともない、新たな教育課程を編成した。3年間を通じて系統的に地域探究に取り組む内容を実践していく中で、主体的に地域共創に参画する生徒を育成していく。 	

生徒指導	<p>○身だしなみについては、多くの生徒がルールを守り、保護者からの評価も高い。</p> <p>○年2回の面談週間、にじいろ委員会やいじめ防止対策委員会による生徒の情報共有や校内研修の実施など、教育相談・サポート体制は機能しており、落ち着いた学校生活を送る生徒が多数である。</p> <p>○コミュニケーションスキルトレーニングの実施が、望ましい人間関係の形成やいじめ未然防止に結びついている。互いを大切に作る人間関係の構築に関して、生徒・保護者からの評価は高い。</p> <p>△規則正しい生活習慣については自律できていない生徒も一部見受けられるため、今後も、継続した指導が必要である。</p> <p>△ボランティアや地域貢献活動への参加生徒は年々減少傾向にある。</p>	<p>○安心して学校生活を過ごしており、互いを尊重した人間関係を築くことができている。</p> <p>○学校行事や生徒会活動、部活動等に積極的に参加することができている。</p> <p>△どのような地域貢献ができるか生徒に考えさせることで、ボランティアの参加生徒を増やせるのではないかな。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民性」を意識させながら、自己管理や自律心の成長につながる行事等の実施を進める。スマホの使用等による就寝・起床時間に乱れのある生徒が見られるため、家庭とも連携し、規則正しい生活習慣の指導を継続していく。 ・次年度も年2回の面談週間を実施し、にじいろ委員会やいじめ防止対策委員会を定期的開催するなどして、生徒が安心・安全に学校生活を送れる取組を継続していく。 ・次年度もコミュニケーションスキルトレーニング等を通じて、個性を尊重し認め合う心と主体性を持って自己選択・決定できる力を育成していく。 ・ボランティアや地域貢献活動への参加を増やすために、生徒の意欲喚起や働きかけ、町教委や町商工会と連携した事前の年間計画提示などの対応をしていく。 	
進路指導	<p>○インターンシップや進路強化研修、学校説明会や企業説明会等を地域や関係機関と連携し実施することができた。学年が上がるにつれ、将来について具体的に考えられる生徒が増えている。</p> <p>○自己理解を深めるための取組として、スタディサプリの進路適性診断を活用した面談や就職ガイダンス、進路相談員による就職者向けのカウンセリング等を実施した。学年が上がるにつれ、進路実現のために具体的な目標を立てることができる生徒が増えている。</p> <p>○4年ぶりに実施した台湾見学旅行では、台湾の歴史や自然、文化を学び、義守大学の学生や大樹区の方々へ日本の文化や大樹町の魅力を紹介する等の交流を行うことができた。</p>	<p>○学校でのキャリア教育を通して、学年が上がるにつれ、将来について具体的に考え、必要な情報等を収集することができている。</p> <p>○国公立大学の合格者が毎年おり、大樹町以外の町村からも大樹高校を評価する声が聞こえている。</p> <p>○台湾見学旅行は、キャリアを見つめる良い機会であり、大樹高校の特色として今後も継続してほしい。</p> <p>△大学受験に対する個別のサポートを手厚く実施してほしい。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も生徒の進路希望に応じた取組を充実・発展させる。総合的な探究の時間を中心に、関係機関と連携した系統的キャリア教育を実践していく。 ・次年度も生徒の進希望に応じた個別最適な取組を充実させる。様々な職業に就く大人との対話から、自身のキャリアについて考える機会を作るなど、望ましい勤労観や職業観の育成に向けた取組の充実を図る。 ・学力テスト・学習等状況調査の客観的なデータや過年度生の取組等と比較して生徒・保護者へ現状を伝え、改善策を提案していく。 ・台湾見学旅行の事前学習を充実させ、「日本と台湾」「大樹町と大樹区」等の比較から広い視点で多文化理解を深めていく。引き続き、総合的な探究の時間を軸とした多文化理解と共生社会理解教育に取り組む。 	

地域協働による魅力ある学校づくり	<p>○本校の取組を、学校便りのウェブページ掲載や町広報での配布、学校PRポスターの作成・配布、学校パンフレットおよび新学科パンフレットの作成・配布、新聞の折り込みチラシの作成・配布、各種学校行事や授業の公開などを行い、広く発信を行うことができた。</p> <p>○地域探究活動への関係機関および地域住民の参加、町教委および町議会の支援による高校生議会の開催、学校運営協議会や大樹高校活性化推進協議会からの支援や助言など、関係機関・地域と連携し教育活動を推進できた。</p> <p>△本校の取組や学校生活の様子などが、保護者には十分に伝わっていない。</p>	<p>○生徒達が、学校生活を楽しく過ごしている様子が伝わってくる。保護者や地域の要望を受け止めた教育活動が行われている。</p> <p>△学校の様子や情報が伝わっていない。情報発信方法の工夫・改善が必要。</p>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるSNS等を用いた情報発信の試みや、学校便りのメール配信等、保護者への伝達手段や方法を改善する。引き続き、町の支援のもと、学校PRポスターや学校パンフレット等の取組を継続し、本校の魅力や特色の発信に努める。 ・次年度も保護者、関係機関、地域と連携・協働した学校作りを推進し、共生社会を支え、新たな価値を創造していく生徒の育成に努める。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、保護者評価、生徒評価を学校運営協議会において、資料に基づき報告した。 ・学校評価報告書、自己評価、保護者評価、生徒評価を学校ホームページにて公開した。 	